THUNDER
FESTIVAL
Vol.6
For Adult Only
R-18
YAMADAICHIZOKU

「こんな時間に何してるの？」
「ねぇ、みらいとリコとモフルンを知らない？」
「この辺なのはなんとなく覚えているんだけど…」
「私皆に会いたいの！」
…親は一緒じゃなさそうだ
歳はいくつ位なんだ？言動から見て小学生のように思えるが…
「コクッ…」
しかし…いや中学生だったとしてもこの体は発育が良すぎる！
「みらいちゃんとリコちゃんと誰だっけ？」
「モフルンだよ！」
「モフルンはぬいぐるみなの！」
「お話したり踊ったりいっぱい遊んでくれたの！」
「それでね三人は私を育ててくれたんだよ」
「…そっか」
この子何か変だぞ…
からかわれてる感じはしないし
これだけ美少女で服だって良さげな物を着ているし
ぱっと見は裕福な家の娘にしかみえないのに…
「交番でお巡りさんに聞いてみた？」
「交番？お巡りさんって何？」
「えっ!?」
「それは知ってないとダメなの…？」
「私何も分からないの…」
「あっいや知らなくてもいいんだよ！」
「そういえば名前は何て言うの？」
はーちゃんだよ

「こんな時間まで遊んでて
お家の人は探しにこないの？」

「お家はリンクルスマホだけど
今はないし…」

「みらいとリコとモフルンは私が
人間になった事知らないと思うから…
今日はこの公園で寝るの」

世間離れしているというよりも
やはり少し頭がおかしい子なんだろう…
なんで都合の良い子だ
この子なら…イタズラされても
理解できないだろうし
もし誰かに話されてもこの子の証言を
信じる奴はいないだろう…となれば

「…はーちゃん」

「友達の家は明日一緒に探して
あげるから今日はうちにきなよ」

「本当っ!? 嬉しい！」

「はーお腹いっぱい！
すっごい美味しかった！
こんなに美味しいご飯
食べたの初めて！」

スーパーの半額弁当だぞ…

こりゃ施設あたりで
虐待されて逃げてきた感じか？
探してる友達ってのは
そこを退所した知り合いか

やはり関係者が探してる
可能性は高いな

表通りの路上カメラは
出来るだけ避けたが!!

…早くすますか

「はーちゃん…
ベッドに行って遊ぼうか」

「うんっ！」

「わーい！お布団気持ちいい！」

「はーちゃんパンツが丸見えだ」

ダメッ!!見ちゃダメぇ!!

まずった!?こんな子なのにそこら辺の性知識はあるのか!?強行して騒がれるのはまずいぞ…イタズラするのは無理か…くそっ！

「……今日ね」

「んっ？あぁ」

「おしっこしたくて…茂みの中でしたんだけど…一人じゃよく分からなくて……」

「それで…パンツ汚しちゃったの…」

「グスッ…」

あー施設じゃパンツを汚すと怒られたりしたのかな？それで隠そうとしたのか…おっそうだ！これなら簡単に裸にできるじゃないか

「大丈夫だよはーちゃんそんなの誰も気にしないし怒ったりもしないよ！」

「汚れ物は洗っちゃうからパンツも洋服も全部脱いでくれる？」

「お洋服……一人で脱げない…」

「ほらっ両手上げて」
何も出来ない何も知らない
…本当に都合のいい子だ
その上この豊満な体！
たゆん
「何で一緒にお洋服脱いだの？
パンツ汚れちゃったの？
あれっ!? そんなの私にはないよ!?」
チンポ見るの初めてなのか
「ちんちんは男の人にだけあるんだよ」
「それじゃくすぐりっこだ！」
きゃはは！
くすぐったーい！

あはっ！
あはははっ!!
そこくすぐっちゃダメ～!!
「はーちゃんはどこを触ってもくすぐったいんだね」
「だっ…だって！くすぐったいんだもん!!あははっ!!」
「舐めるのはどうかな？」
「ペロペロ…」
「それもダメ～!!きゃはははっ!!」
少ししょっぱいが…良い匂いがする！
おっぱいはどうかな？
ぺろ～…
クリ
クリ
「くふっ…くふふ！ダメっ…くすぐったいよ～！」
「そこ…舐めちゃ…くふふっ…」
少しやりすぎた…やめたいと言い出されたらまずい…
「それじゃ今度ははーちゃんがペロペロしてくれる？」
ちゅう
ちゅう
「は…は…ー…」の
「いっぱい笑って疲れちゃった…」
「うんっ！いいよ！」

「先っちょからぬるぬる
したのが出てくる！
変な味だしビクビク
動いてる！」

「あはっ！
くすぐったいんだ！」

「よーし
さっきのお返しにいっぱい
くすぐっちゃうから！」

「くぅ…くすぐったくて
凄く…いい感じだ…」

「はーちゃんは…おぅ…
くすぐるのが凄く上手だ…」

「本当!? 嬉しい！
褒められるの大好き！
みらいとリコとモフルンも
いっぱい褒めてくれたんだよ!!」

ちゅぅぅ

くちゅ
くちゅ

ぺろ
ぺろ

ぺろ

ビクッ
ビクッ

「はーちゃん可愛くてお利口でくすぐるのも
上手だからずっとここに居て欲しいな」

「毎日くすぐりごっこできるし」

「ほれわらめらよ！」

「プリキュアは悪い人達と戦ってるんだもん…
私も皆の所に行って少しでも役に立ちたい！」

「だからずっとは居られないけど
今日はいっぱいくすぐりっこしていいよ！」

また何だか分からない事を言ってるが…
くすぐりっこは嫌がってないようだし
今日はたっぷりとこの体を弄んでやる
「それじゃ今度は舐めあいっこしよう」
「うんっいいよ！」
「でも舐めあいっこってどうやって
するの？」
はーちゃんのお尻をこっちに向けて
足を開いてまたがって
「ひゃ…そこ…おしっこ出るとこだよ」
「どんな感じがする？」
「くすぐったい…じゃなくて変な感じ…」
「ジンジンして…おしっこ出ないのに
出そうになる…うぅ」
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅぱ
モジ…
モジ…
「ほらはーちゃん休んでちゃダメだよ
先にペロペロやめた方が負けだからね」
「そうなの？　がんばらなきゃ！」
思いっきりクリトリスを
刺激してやるか…
「んっ…!?　あっ…だめ変だよ…そこ
いっぱいペロペロされると…あぅ…」
「力入らない…無理～だめだ～…」
「はぁ…はぁ…負けちゃった…」
「ちんちんって硬いし
強いんだね私も
欲しかっただな」
「はーちゃんは
ちんちん好き？」
「うんっ！」
はぁ
はぁ
はぁ
「じゃぁちんちんから
白いおしっこが出るの
見せてあげる」
「本当っ！」

「こっち向いてちんちんの上に乗って」
「これでいいの？」
「そうしたら前後に腰を動かして」
「んっ…んっ…あぅ…あんまりすると…あっ…だめだよ…」
「もう…できない…まだ…出ないの…？」
「凄いぬるぬるしてる…私のおしっこなのかな…？」
「自分の体なのに知らない事がいっぱい」
「それに…やっぱりおしっこする所がジンジンして…変な感じ…あっ…」
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
「くぅっ…もうちょっとだから…がんばって…おぅっく…」
「出る！おおおぉぉっくぅ!!」
「すごーい!?本当に白いおしっこ出たよ!?」
「ちんちんって面白い…くすぐりっこすると白いおしっこがピューって出るんだね！」
「もう一回見たいな～」
好奇心旺盛な子だ…後で嫌って程見る事になるよ
「それじゃ一緒にお風呂に入ってそこでもっと良い事しようか」
「うんっ!!」

2016年8月14日発行 おまけ本 サークル山田一族。(もきゅ 袋小路) URL http://yamadaweb.sakura.ne.jp/ MAIL yamadamofumofu@yahoo.co.jp 印刷 コピー業 無断転載、複製、アップロード禁